



# グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2014 Vol.15, No.2

## 大河原相談役・伊藤代表世話人・石川執行世話人 新体制発足

グローバル・フォーラムは、その前身である四極フォーラム日本会議が1982年に発足した時以来、初代代表世話人大来佐武郎、第2代代表世話人大河原良雄、初代執行世話人伊藤憲一の体制で運営されてきたが、さる1月15日に開催された第24回世話人会で、こ

### 大河原相談役挨拶

グローバル・フォーラムはこれまで30年余の歴史を重ね、政界、経済界、言論界及び学界等の各界有識者の積極的なご参加を得て、幅広い知的対話に取り組んで参りました。

近時「日本外交の再生」を求める声が強く叫ばれていますが、グローバル・フォーラムはこうした状況をも背景に一層の前進を期しています。

今回新しい陣容が整ったことでもあり、引き続き各位の力強いご支援をお願い申し上げます。



の体制が21年ぶりに改組され、2月1日から大河原良雄相談役、伊藤憲一代代表世話人、石川薫執行世話人の新体制で運営されることとなった。

当日は、経済人世話人の豊田章一郎、茂木友三郎、国会議員世話人の浅尾慶一郎、小池百合子、谷垣禎一、有識者世

### 伊藤代表世話人挨拶

グローバル・フォーラムの活動は、1982年の創立以来10年でポップ、20年でステップなら、30年目を迎えたこ

れからは、ジャンプです。「継続は力なり」といいますが、これからは黙々と頑張ります。

最近では、官民の筆頭を切って、黒海地域12カ国、とくにGUAM 4カ国との対話の道をつけました。安倍首相の「地球儀俯瞰」外交に呼応した民間レベルの価値観外交であり、今後とも強力に推進してゆきたいと考えております。



話人の島田晴雄、平林博、渡辺蘭の世話人全員が出席して、「相談役」ポストを新設する「規約」改正、収支予算・決算案を承認したあと、この新体制を承認した。

なお、石川新執行世話人は、1972年東大法学部を卒業後、外務省に入り、在カナダ大使などを歴任後、退官した。

### 石川執行世話人挨拶

このたびグローバル・フォーラムの執行世話人に就任いたしました。皆様のご指導をお願いいたします。

グローバル・フォーラムが発足した30年前の世界は、四極（日米欧加）が世界をリードしていましたが、今はBRICsなどのプレーヤーが台頭して、新しい世界秩序を模索しております。

グローバル・フォーラムの重要性はますます強まるものと考えられます。引き続きご支援・ご鞭撻方くれぐれもよろしくお願い申し上げます。



## 「日中対話：新空間における信頼醸成」開催さる

グローバル・フォーラムは、日本国際フォーラムとの共催により、1月16日東京で「日中対話：『新空間』の日中信頼醸成に向けて」を開催した。

当日は、中国から李寿平・北京理工大学宇宙法研究所所長等6名を迎え、青木節子慶應義塾大学教授(写真中央)等日本側参加者70名との間で、活発な意見交換を行った。

「新空間」としては「宇宙」、「サイバー」、「北極」の3つの空間が取り上げられ、「セッションⅠ：現状と課題」「セッションⅡ：日中間の信頼醸成に向けて」に分けて議論された。

「宇宙」については、日中両国ともにロケット、人工衛星等の開発面で実績があり、いわば宇宙先進国だが、今後の協力のあり方としては、「宇宙ゴミ軽減や自然災害時の地球観測などの実利につながる分野での情報交換を重視すべきだ」との意見が述べられた。

「サイバー」については、サイバーを利用する行為の合法性と非合法性の境界線を日中両国間で明確に定義し、合意することの必要性が指摘された。

「北極」については、地球温暖化の中で北西航路開設や海底資源開発等が

取りざたされているが、まだ北極地域全体をカバーする法的拘束力のある枠組みは形成されておらず、日中両国としては「北極評議会」等において、情報交換や協力をしてゆく必要が指摘された。



## 議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

### 結婚の神聖について

上智大学名誉教授 渡部 昇一

「野合」から区別して「結婚」というのは、とりもなおさず、それが家庭を重んずることに連なっているからである。それは、家庭と家族を法律によって保護することに連なる。しかし、男女の間のことだからそこからずれた行為もある。結婚している者が配偶者と別の相手と関係すれば、姦通ということになる。昔はそれに刑罰が規定されていた。

しかし姦通でも子供が生まれる。不倫して、非嫡出子を持った男がそれに対する配慮なく死んだらどうなるか。残された子供たちの間で相続問題が起りうる。かつては法律は結婚を、つまり家庭を守る立場であったから、非嫡出子に相続権はなかった。しかし現実にそういう子供が居るのは事実であり、全く遺産を与えられないのも可哀想だということで、非嫡出子も結婚か

ら産れた子供の半分の割合にするという法律に変わった。

結婚による家庭制度を尊重すると共に、非嫡出子にも配慮するという妥協案で、現代の「大岡裁き」として評価する人が多かった。ところが最近の最高裁では、十数人の判事達が揃って非嫡出子の相続権を、法律婚の子供と区別しないことにした。結婚や家族制度の意義を完全に無視したもので、それに対して一人の判事の反対もなかったというのが凄い。今回の最高裁の一致した判断は、**日本人の先祖の意思や子孫のことを考えない独裁ではなかったら**、と不安に思われてならない。諸外国の婚外子の割合が五十パーセント前後、日本はたった二パーセントということも最高裁の判事たちは重視しなかったようである。

(2013年10月17日付投稿)

### 最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- 2/10 「春節、金融パニックの始まりか」(大井幸子)
- 1/17 「日中対話『『新空間』の日中信頼醸成に向けて』に参加して」(池尾愛子)
- 1/12 「脱原発は破壊の選択」(住吉久俊)

- 1/6 「プーチン大統領の訪日で北方領土解決の突破口が開けるか」(飯島一孝)
- 12/19 「皇室外交」(緒方林太郎)
- 12/3 「同盟国間の盗聴は裏切りか」(袴田茂樹)

## フォーラム活動日誌 (12-2月)

- 12月1日、2月1日 『GFJ-E-Letter』発行
- 1月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』発行
- 1月7日 第20回補佐人会
- 1月10日 第96回 外交円卓懇談会 (Glen S. FUKUSHIMA氏他31名)
- 1月15日 第24回世話人会・第10回拡

- 大世話人会 (豊田章一郎経済人世話人他16名)
- 1月15-16日 日中対話『『新空間』の日中信頼醸成に向けて』(李寿平 (LI Shouping) 北京理工大学法学院副院長・宇宙法研究所所長等76名、東京の国際文化会館にて)

## ワシントンから見た日米関係



1月10日、**グレン・S・フクシマ**「センター・フォー・アメリカン・プログレス」上級研究員(写真中央)は、当フォーラムの第96回外交円卓懇談会において、「ワシントンから見た日米関係」と題し、つぎのとおり語った。

2012年秋に22年ぶりにワシントンに戻って感じた変化は、ワシントンの関心がグローバルになった、とくに中国への関心が台頭していることだった。日米二国関係を考える際に忘れるべきでないのは、このワシントンのグローバル化である。

日米関係はもはや日本と米国の二国間関係のみでは律せられない。アジアひいてはグローバルな枠組みの中で律せられる。現に、尖閣問題については、中国の立場について日本の立場より10倍は聞かされる機会が多いが、それには対米世論工作という事象面というよりも、何か日米関係を冷戦時代のままの感覚でとらえている日本人が多いからだ、という印象がある。中国人留学生が圧倒的に増える一方、日本人留学生が減り続けているという問題も背景の一つとしてある。

### ■新規就任世話人等の紹介

(12-2月分)

- 【相談役】大河原良雄
- 【代表世話人】伊藤 憲一
- 【執行世話人】石川 薫
- 【常任世話人】渡辺 蘭
- 【有識者世話人】平林 博



グローバル・フォーラム会報  
2014年春季号  
(第15巻 第2号 通巻第58号)

発行日 2014年4月1日  
発行人 石川 薫  
編集人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp  
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/